

手のひらに、江戸

ひのきさいくし

檜細工師

# 三浦宏の粹



具服屋



床屋



蕎麦屋



米戸番小屋



自身番

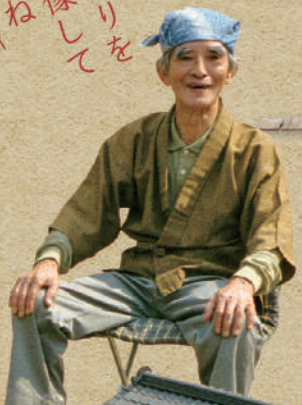


猪牙舟



割長屋

江戸庶民の暮らしぶりを楽しく想像してくださいね



湯屋



めし屋



うらうち舟



Photo: Koji Ishizaki, Arata Tsukimori

2024

9.21<sup>土</sup> - 11.11<sup>月</sup>

致道博物館 CHIDO MUSEUM

開館時間 / 9:00 ~ 17:00 (受付16:30まで) 会場 / 致道博物館 美術展示会場  
入館料 / 一般1,000円、高大生400円、小中生300円(20名以上で団体割引有り)

主催 / 公益財団法人致道博物館 (山形県鶴岡市家中新町10-18 TEL.0235-22-1199)  
共催 / 山形県・公益財団法人山形県生涯学習文化財団・鶴岡市教育委員会





手のひらに、江戸  
ひのきまじり  
檜細工師  
**三浦宏の粹**

2024

9.21<sup>土</sup>-11.11<sup>月</sup>



**ミニチュアが魅せる江戸の下町  
庶民の暮らしに思いを馳せて**

浅草の風呂桶職人の家に生まれ、優れた技術で檜風呂や手桶などを製作していた三浦宏（1926-2019）。時代の流れに伴って木製風呂桶の需要が減るなか、子どもの頃から親んだ和船の模型づくりに取り組みます。

確かな職人技で再現されるミニチュアは次第に評判となり、江戸最古の人形の老舗「吉徳」をはじめ、各方面からの依頼が舞い込み、亡くなるまでの38年間に100点以上の作品を手がけました。

本展は、長屋・湯屋・呉服屋などの代表作品（縮尺1/10）を中心に約70点を展示する、過去最大級の展覧会です。

徹底した調査、繊細な技、幼い頃からの経験や「記憶の中の匂い」が吹き込まれた作品からは、江戸下町の叙情と庶民の暮らしぶりが感じられます。

火消し現場のシンボル「纏（まとい）」

日常的に火事がおきた江戸では、町火消が編成され48の「組」があった。目印の纏は組の団結の象徴でもあった



江戸の集合住宅「長屋」作品縮尺1/10「棟割長屋」と「割長屋」

庶民のほとんどは長屋で暮らした。裏通りの路地両側に長屋が並び、路地中央にはドブ板でおおわれた汚水を流す溝があった。台所と小さな部屋だけの広さ約6畳の家に、一家族が暮らした。厠（かわや=トイレ）は共同で、風呂は有料の銭湯「湯屋」しかなかった。

**イベント案内**



9/21<sup>土</sup>14時~15時 **作品を覗きみる**

**ギャラリーツアー**

案内：三浦佳子氏（三浦宏氏長女）

会場：致道博物館美術展覧会場 ※申込不要、直接会場へ



「金魚鉢」

10/20<sup>日</sup>14時~16時 **江戸っ子の生活がわかる**

**記念講演会「江戸町人の暮らしと住まい」**

講師：市川寛明氏（江戸東京たてもの園 園長）

会場：荘内神社参集殿 ※要申込：先着150名

☎0235-22-1199

✉reserve@chido.jp



「屋台 天麩羅屋と寿司屋」

11/3<sup>日</sup>14時~15時 **三浦宏さんの人と技**

**スペシャルトーク**

お話：林直輝氏（日本人形文化研究所所長）

会場：致道博物館美術展覧会場 ※申込不要、直接会場へ



三浦宏氏 略歴

大正15年生まれ。父は風呂桶職人、祖父は船大工。家業の「三浦風呂製作所」を継ぐが、需要減もありミニチュア制作を始める。

昭和56年（1981）、辻村寿三郎氏が花魁人形を手がける「吉原」展の妓楼製作を引受け、大反響となる。以後、各地の展覧会に作品を出品。

令和元年（2019）6月永眠。享年92歳。

三浦宏HP



致道HP



ちほくX



**致道博物館**  
CHIDO MUSEUM



■JR鶴岡駅より  
バス10分  
「致道博物館前」  
下車徒歩2分

■山形自動車道  
鶴岡ICより  
車で5分

■庄内空港より  
車で20分